

平成 27 年 8 月 4 日
野洲市

滋賀県の交通政策及び幹線道路の課題検討について

趣旨

滋賀県は、交通の要衝として早くから幹線道路が整備され日本の発展と安全を支えてきたが、現状では広域幹線道路から日常生活を支える市町道に至るまで、道路網の整備が時代と社会・経済の要請に応じ切れていない状況にある。加えて、防災及び避難・復旧等災害対応の面からも重大な課題を抱えている。全国的にも道路は施設更新も含め様々の課題を抱えているが、特に本県では幹線道路の整備率が全国レベルで見ても下位にある。

近年国道 1 号、8 号、161 号等の直轄国道においては、着実に整備促進が図られてきているが、残された課題と事業は多大である。また、県管理道路においては「道路整備アクションプログラム」により進められているが、事業進捗の遅滞が慢性化しており、事態と展望は一層深刻である。

市町道においては以上の幹線道路の整備の遅れを受けて過大な負荷がかかり、通学路・生活道路などにおいて住民の安全が脅かされている。

一方鉄道交通は、東海線、湖西線、草津線に加え、私鉄と新幹線によって構成されているが、隣接府県と交通を含め利便性の向上と特に県南部地域での輸送力の強化が課題となっている。また、新幹線については、昭和 39 年の開業以降、県内新駅の設置を見ることなく、利便性は改善されず、地域の一層の発展の制約要件となっている。

さらに、北陸新幹線が金沢まで開業し、敦賀以西のルートのあり方が

具体的化するなか、滋賀県はもとより近隣ブロック・県にとって最大利益がかなうよう実質的には当事者間の調整と合意形成が課題となっている。

以上の観点にたつて、滋賀県の交通ネットワークの課題と将来構想について情報の共有化と議論を進めたい。

論点整理

1. 幹線道路の状況と今後の見通し

幹線道路の整備率が全国レベルで見て下位にあることの現状

国道1号、8号、161号等の直轄国道の状況

県の幹線道路の現状と道路整備アクションプログラム

今後計画策定が必要な道路

府県間を結ぶ幹線道路等の必要性

2. 幹線道路の整備率が全国的に下位の状況に至った経緯

3. 道路整備の遅れによる社会経済的影響

産業、生活、防災・安全

4. 整備率向上に向けた戦略

5. 琵琶湖大橋有料道路の有料継続の考え方と方策

6. 鉄道交通ネットワーク

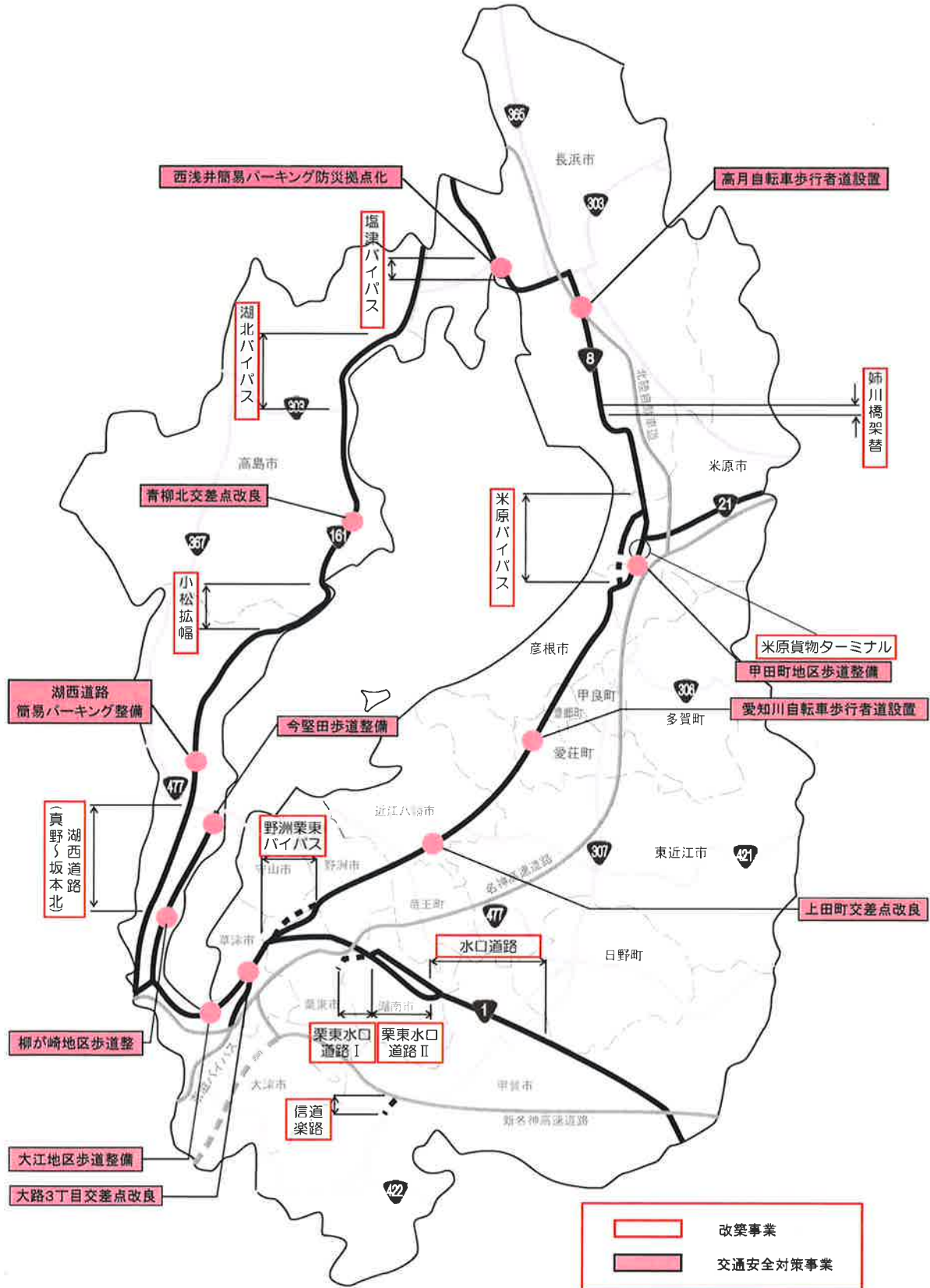
北陸新幹線敦賀以西延伸ルートについて

若狭（小浜）ルートが閣議決定された経緯と根拠

県内での東海道新幹線新駅整備の課題と展望

※ 出典
 国土交通省近畿整備局滋賀国道事務所
 平成27年度事業概要 資料より

III 滋賀国道事務所の主要事業箇所



IV 道路調査の概要

～地域の課題解決に向けた調査について～

※ 出典
国土交通省近畿整備局
滋賀国道事務所
平成27年度事業概要 資料より

<主な調査内容>

●国道8号 彦根～東近江

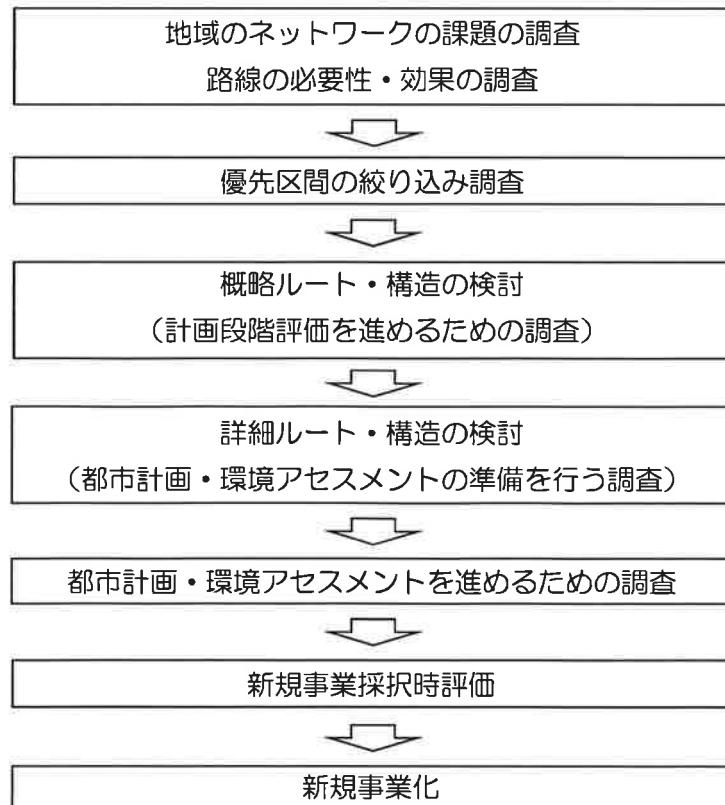
概略ルート・構造の検討（計画段階評価を進めるための調査）を実施します。

大都市周辺のボトルネック箇所への集中的対策に向けた調査を推進します。

その他の地域についても、交通状況、社会経済状況や道路網の課題等を調査し、優先区間の検討や地域の道路網の中での必要性・整備効果の整理等を進めることとしています。

また、渋滞や交通安全など、地域における道路交通に関する課題、サービスレベルを把握するためのデータ収集・分析等を行うとともに、路線の必要性、緊急性、妥当性に関する基礎的な調査を実施します。

◆道路調査の流れ



北陸新幹線・敦賀以西ルート of 主な動向について

- H27.3.14 北陸新幹線(～金沢)開業
※敦賀までは2023年に延伸
- H27.4.7 井戸兵庫県知事は、福井県知事選の応援演説で「金沢や福井から関西を見ると大阪や京都が視野に入ってくる米原ルートでは駄目だなと言う感じがする」と述べた。
- H27.4.23 関西広域連合の首長会合で、三日月滋賀県知事が井戸兵庫県知事に対し、先の福井県知事選の応援演説で「米原ルートではだめ」と発言したことの真意を質したところ、井戸兵庫県知事は「選挙応援のリップサービス」と釈明。
- H27.7.6 定例会見で、JR東海の柘植社長は、米原ルート案については、「列車密度から現状では物理的に困難」という認識を表明。
- H27.7.23 自民党総務会で、上野賢一郎滋賀県連会長(滋賀2区)が、3ルートを公平に議論すること及び、検討委員に関西、北陸、中部の幅広い議員で構成することを主張。
※北陸新幹線敦賀以西ルートをめぐる与党検討委員会に関し、湖西や米原ルートを目指す滋賀県の議員を委員から外す動きがあったため。